岩手県立生涯学習推進センター

研修実施報告 Web版

実 施 日：令和２年７月 14 日（火）
実施場所：県立生涯学習推進センター
受講者数：129 名（午前:45 名、午後 33 名
サテライト:51 名）

放課後子ども総合プラン指導者合同研修会①

職 員 研 修
有志指導者研修
要 請 研 修

放課後子供教室及び放課後児童クラブに携わる関係者等、合計 129 名の方々が受講しました。県立美術館の講師の方々から、子どもの主体性を大切にした関わり方や、身近にある材料を活用した遊びが紹介されました。

子ども達に、ものづくりや表現することの楽しさを感じてほしい

↑発達段階に応じた主体的な遊びについて講義をする土谷氏

↑新聞紙を活用した造形あそびを紹介する有馬氏

岩手県立美術館の土谷文子氏、有馬辰樹氏、菅原睦氏の3名の講師から「異年齢の子どもが同時に遊べる題材」と題してご指導いただきました。土谷氏からは、放課後児童クラブ運営指針を基に、発達段階に応じた子どもの主体的な遊びについての講義や、美術館で実施した過去のワークショップの紹介がありました。身近にある新聞紙を利用した造形活動と、作ったものをお互いに見て語り合う楽しさついて有馬氏から話され、受講者は「この世にある、または空想の生き物」をテーマに思い思いに制作していました。菅原氏は、傘袋を使った遊びについて紹介され、「何を作るか」「どう作るか」の関係性の大切さについても話されました。子どもの主体性を重視した大人の関わりについて、受講者は頷きながら講師の話を聞き入っており、学びたい意欲があふれていました。

↑傘袋を使い、正解の無い造形の面白さを紹介する菅原氏

サテライト会場を設置しました！

↑サテライト会場で演習に取り組む受講者

多数のお申し込みのため抽選となりましたが、サテライト会場を設置し、多くの方に受講していただくことができました。演習も3種類中2種類を準備し、本会場と同様に、講義・演習と没頭して取り組んでいる様子が見られました。

《受講者の声》

- 大人の都合ではなく、子どもの意思や主体性を尊重し、子どもと一緒に楽しみたい。
- タワーの崩し方にも様々あり、視点を変えることで遊びが広がることがわかった。
- これからは、何をどう作るか子ども達自身に考えさせ、大人がフォローしていきたいと思う。
- 子ども達の主体性をもっと引き出していきたい。

《受講者の評価》

A（有意義）	84.4%
B（どちらかといえば有意義）	15.6%
C（どちらかといえば有意義でない）	0%
D（有意義でない）	0%

《担当者（阿部）から》

ついつい子どもに言ってしまう台詞に私も身に覚えがあります。子どもの主体性を重視した大人の関わりを意識して、子ども達の最高の笑顔を引き出したいものです。